

在宅医療・介護連携推進に係る多職種合同意見交換会で出された意見

第1回合同意見交換会で出された課題	第2回合同意見交換会で出された解決策・アイデア	平成30年度末の目標
専門職間の連携 医師との連携 大きな病院との連携 地域の中の多職種連携 職種毎、事業種別毎の連携	病院へのアプローチ方法を定める(例:病院毎に相談先の一覧表作成、フローチャート) 介護事業所対応の窓口を作る。病院と事業所間をとりもつ相談員を置く。 退院時のカンファレンスを必須となど、ルールを作る。	入院時退院時ルールの確定 病院と介護事業所とのコミュニケーションフローを作成
医療と介護の連携 医療と介護の連携	情報の共有。ICTを活用する。情報連絡するときの書式を作る(医療⇄介護) 相互勉強会を実施する。各自業者合同のイベントを開催する。 情報交換の場をつくる。	MCSの普及、活用。活用割合は、在宅医療支援センターの登録患者数の8割 研修会(合同意見交換会)の継続 顔の見える関係の確立、事業所別連絡会の活動継続。
相互理解や在宅へのプロセスの課題 相互理解 病院から在宅への移行 顔の見える関係	各職種間の相互理解のため研修を実施する。 職域団体を立ち上げる。 入院直後からの在宅への支援をするような仕組みづくり。 多職種との話合う場を定期的に開催、それに参加していく。	(合同意見交換会) (団体設立済み) 入院時退院時ルール等連携ルールの確定 研修会(合同意見交換会)の継続
本人、家族に関する課題 サービス利用への障壁 高齢者を取りまく環境 家族の介護力不足 経済的問題	医療・介護に関する実用的な利用説明のパンフレット作成する。 移動手段の確保。通院手段(バス、乗り合いタクシー) 高齢者の身元確認方法を確保しておく。	パンフレット作成 安心安全シート・カード所持者10%増
在宅医療・介護を支える体制の課題 人材不足 急変時の対応 専門医療の必要な患者への対応	医療・介護分野の労働条件、待遇の改善。 往診医師を増やす。往診医師チーム。	往診医の課題について協議会で検討開始し、解決策を見出す
在宅医療・介護を担う地域資源 地域資源の把握 相談先 プロとしてのスキルアップ	働く家族も相談しやすい(夕、夜)の窓口。切れ目のない相談窓口開設。	医療、介護資源のマップ最新情報の掲載 在宅医療支援センター、機能強化型地域包括支援センターの関係機関、市民への普及、受付相談窓口の稼働時間の確定 専門職研修会を年に数回開催
連携における配慮すべき課題 個人情報の取扱い		連携ルールに個人情報取扱いについて掲載
市民への周知 市民への周知	市報掲載、学習会の開催、パンフレット、便利帳作成、連携のホームページ作成、医師からの勧め	市民講座・出前講座等の実施、広報誌の定期発行